ヒューマン・ライトって？

福山市では、人権文化が根付いた地域社会の実現に向けて、「人権」について学習し、さまざまな角度から啓発内容を創造することのできる地域リーダーの養成を目的に「ふくやま人権大学」を実施しています。

ふくやま人権大学2023開講

テーマ　人権・平和ゼミコース　若い世代による平和メッセージ（全3回）

第1回　10月7日（土）
「あの日の記憶を風化させない！」
発表　広島市立基町高等学校美術部OG，ふくやまピースラボのみなさん，梶原百恵さん（第23代高校生平和大使）

第2回　10月21日（土）
「現在（いま）を見つめる！」
発表　盈進中学高等学校ヒューマンライツ部のみなさん

第3回　10月28日（土）
「願いを結集し，平和な未来を紡ぐ！」
発表　髙橋　悠太さん（一般社団法人かたわら代表理事）

場所　福山市役所3階大会議室　時間　13時30分～15時

テーマ　多様性ゼミコース
あなたのそれもあり，わたしのこれもあり
～多様性は力になる～（全2回）

第1回　11月18日（土）
講義「そもそも多様性はどうして大切なの？」

第2回　11月25日（土）
講義とワークショップ
「多様性を大切にする社会の実現をめざして」

講師　2回共　上村　崇さん（福山平成大学　福祉健康学部教授）

場所　福山平成大学3号館1階3101教室　時間　10時00分～11時30分

〈問合せ・申込み先〉福山市市民局まちづくり推進部　多様性社会推進課
TEL　084-928-1006　FAX　084-928-1229

いいえ、ライツです。

ふくやま人権大学 2023

人権文化が根付いた地域社会の実現に向けて、「人権」について学習し、さまざまな角度から啓発内容を創造することのできる地域リーダーの養成を行っています。

2006年度から実施している「ふくやま人権大学」は、今年度で18年目を迎えます。

今年度は**「人権・平和」**、**「多様性」**をテーマに講座を開催します。

要申込　参加無料

テーマ　人権・平和ゼミコース
若い世代による平和メッセージ（全３回）

第１回　１０月 ７日（土）　「あの日の記憶を風化させない！」
発表　広島市立基町高等学校美術部OG，ふくやまピースラボ，元高校生平和大使

第２回　１０月２１日（土）　「現在（いま）を見つめる！」
発表　盈進中学高等学校ヒューマンライツ部

第３回　１０月２８日（土）　「願いを結集し，平和な未来を紡ぐ！」
発表　髙橋　悠太さん（核廃絶ネゴシエーター，一般社団法人 かたわら 代表理事）

申込フォームはこちらから　↑

時間：１３時３０分～１５時

会場：福山市役所本庁舎 ３階 大会議室（福山市東桜町３番５号）※西口からお入りください。

会場定員：各回５０人

駐車場：市営東桜町駐車場をご利用ください。

テーマ　多様性ゼミコース
あなたのそれもあり，わたしのこれもあり
～多様性は力になる～（全2回）

第１回　１１月１８日（土）　講義「そもそも多様性はどうして大切なの？」

第２回　１１月２５日（土）　講義とワークショップ　「多様性を大切にする社会の実現をめざして」

講師：各回　上　村　　崇 さん（福山平成大学　福祉健康学部教授）

時間：１０時００分～１１時３０分

会場：福山平成大学　３号館１階 ３１０１教室（福山市御幸町上岩成１１７－１）

会場定員：各回３０人

駐車場：構内の駐車場を準備

申込フォームはこちらから　↑

※手話や要約筆記が必要な場合は、事前にご相談ください。

申込方法

電話、ファクシミリまたは電子メールで「名前」、「ふりがな」、「連絡先」、「受講希望テーマ、希望日」をお知らせください。各テーマの申込フォームからも参加の申込みが可能です。

主催・問合せ・申込み先

福山市市民局まちづくり推進部　多様性社会推進課
TEL 084-928-1006　　FAX 084-928-1229
電子メール　tayouseisyakai-suishin@city.fukuyama.hiroshima.jp

ふくやま人権大学ＨＰ

ふくやま人権大学 2023 ゼミ

人権・平和ゼミコース

若い世代による平和メッセージ

10月　7日(土)　**「あの日の記憶を風化させない！」**

広島市立基町高等学校美術部OG，ふくやまピースラボ，第２３代高校生平和大使

10月21日(土)「現在（いま）を見つめる！」

盈進中学高等学校ヒューマンライツ部

10月28日(土)「願いを結集し，平和な未来を紡ぐ！」

髙橋　悠太さん（核廃絶ネゴシエーター，一般社団法人かたわら代表理事）

ふくやま人権大学2023ゼミ

人権・平和ゼミコース　～若い世代による平和メッセージ～

第１回

10月　7日（土）★発表と展示

テーマ「あの日の記憶を風化させない！」

●発　表

- **広島市立基町高等学校　美術部 OG**
  大迫　美晴さん，小川　美波さん
- **ふくやまピースラボ**
  松脇　汐音さん，檀上　美蘭さん
- **元高校生平和大使　梶原　百恵さん**

広島市立基町高等学校美術部
卒業生　小川　美波さん

基町高校美術部は，２００７年から『原爆の絵』の制作に関わり，これまでに１９１点の絵を完成させた。原爆の体験者・証言者もだんだん高齢化となり，原爆の実相をどのように後世に伝えていくかを考えながらこの活動を続けてきた。

小川さんが描かれた『お父さん』の絵。そして次の年に描いた『閃光』。

証言者の方と対面で体験を聴き取り，インタビューを続け活動してきたが，今まで教科書で習った『原爆』とは全く違っていた。ひとりが経験した本当の『原爆』を学んだ。自分の知らないものを描くことの難しさ，証言者の「おそろしいけど実に美しい」をどう表現したらよいか苦労した。想像することができないもどかしさや想像力のなさと葛藤しながら証言者の思いを忠実に表現することにエネルギーを注いだ。

この活動を通して「絵に向き合う」姿勢がかわってきたように思う。一人ひとりの「原爆」を，思いを，思いの裏側にあるものをもっと知らなければならないと思うようになったと。

現在，学芸員として働いている。この経験から今，「人の心はなぜ動くの？」事実の裏側にあるものは何かを自らの研究テーマとしている。その基礎には高校での『原爆の絵』の制作が自分の基となっている。

広島市立基町高等学校美術部

卒業生　大迫　美晴さん

大迫さんが描かれた『避難する人と力尽きた人』。

この絵を完成するために，証言者の方との聴き取り，月１回のフィールドワークを続けてきたが，当時のことを忠実に再現しながら歩いたと思うが，いくら証言を聴いても当時のことをどこに見つけたらよいのか？自分の中で葛藤の毎日だった。

そんな時，先生から「この人たちはあの日生きていたひとりの人間。たった１発の原子爆弾で日常を全部奪われた。自分たちと同じように生きていたひとり」

その後も葛藤をしながらの毎日だったが，あの日，その人に何があったのかその人を考えて描きたい，ひとりでも多くの人に伝わるように描きたいと思うようになった。

絵を完成させ，卒業し，現在，「戦争」への思いが変わった。子どもをもつ親となり，子どもを大切に想う気持ちがより強くなった。「戦争」は，人々がどれだけ人としての生活を奪われ，人として生きることを奪われるのかがわかった。「原爆」は死ぬまでその傷跡，犠牲は残る。「戦争」になる前に自分ができることを考えた。①社会を知る　②選挙に行く　③相手を受け入れる　最後に・・証言者の方が言われたこと「戦争は人が人に向けてやったこと。だからだめなんだ。」あの日の犠牲を犠牲で終わらせないために一緒に考えることが必要。

ふくやまピースラボ

松脇　汐音さん
檀上　美蘭さん

「ふくやまピースラボ」は，２０１５年に設立された。「学年も違う，学校も違うけれど，平和について学びたい。みんなと考えたい。そして発信していきたい」「戦争・福山空襲・原爆の実相に学び，平和を築くために自分たちは何ができるかを考える」という思いをもって活動している。

中学生，高校生，大学，専門学校の学生など２６人のメンバーで始まった。現在は１８人で活動している。福山人権平和資料館を拠点に，企画からみんなで考えている。福山空襲（戦争）体験者の話を聴く会，福山空襲による戦争遺跡のフィールドワーク（ピースウォーク），8月8日の「市民平和のつどい」で学んだことの発表，そして活動や学んだことをピースアートにして発信している。その他，街頭での署名活動や，１２月の人権週間に開催される「ふくやま人権・平和フェスタ」にも参加している。

戦争を知らない世代の方が多くなっているからこそ，「戦争」の実相や，体験者の方々の思いを知らない世代へしっかり伝えていくことが必要。自分たちはそんな思いで活動している。

そして，世代を超えて「平和」を築くための活動へ積極的に参加していくことも，ピースラボの役割だと思う。

第23代高校生平和大使
梶原　百恵さん

第２３代高校生平和大使に選ばれた。自分は，中学生・高校生の時「ふくやまピースラボ」へ所属していた。ピースラボの活動で，今の自分の基礎となる，学んで，発信することを学んだ。「平和」への活動の出発点となった。「核兵器廃絶高校生一万人署名」にも参加した。そして平和大使に選ばれ・・・

「微力だけど無力じゃない」こともわかった。「平和」を築くために現実的に動けたという思いにもなった。今何かしなければ，動かなければという意識もますます強くなった。これまで「平和活動」に向け活動している多くの人たちの出会いにも刺激された。

子どもたちや今を生きる私たちのため「平和」はあるべき姿だと思う。世界中のどこかで今も「戦争」や「紛争」が続いている。「何かしなければ・・」というジレンマもあるが，もっと「平和を築く」ための発信をしなければと思う。ＳＮＳやインスタグラム・・あらゆる情報発信できるものを活用・利用して発信していくことも大事。

被爆・戦争体験者の証言を聴き，戦争を知らない世代への「伝承者」になることも必要。

「受けとめる」から「伝える・行動する」ことを発信しながら自分も
自分にできることを日々探っていきたい。

集ったみんなで「平和」への思いを強くした1日でした。

若い人たちの平和の活動や実際の声を聴きたかった・・・参加者の声より

- 若い世代の平和メッセージを聞く機会はなかなかないので貴重な時間だった。
- 若い世代の発表に感動した。
- 原爆の絵を描く思いや難しさや「あの日」の記憶を風化させないという思いが強く伝わった。
- 「なぜ戦争に至ったのか」そこを知ること，考えることが本当に大切だと感じた。
- 平和な今が当り前ではないということ。これまでの事実を知っていくこと。少しでも多くの人に伝えていくこと。そして自分にできることを考え，見つけ，行動化していくことの大切さを再認識することができた。
- 平和・人権は日々意識していないと風化していくものだと思う。人の歴史は戦争の歴史でもあると思っている。平和にかかる意識を新たにすることができた。
- 平和を願う人は多くいると思うが，活動している人はまだまだ少ない。地域のつながり，家族の絆の大切さをもっと多くの人と共有したいと思った。私にできることは何か･･･考えてみたいと思う。

ふくやま人権大学２０２３ゼミ

人権・平和ゼミコース「若い世代による平和メッセージ」

第２回

10月21日(土)「現在(いま)を見つめる！」

●発表
盈進中学高等学校ヒューマンライツ部

●意見交換
「現在(いま)は，本当に平和な社会といえるのか」

盈進中学高等学校
ヒューマンライツ部活動内容①

ヒューマンライツとは，
人権という意味で，「人を大切にする」ということ

平和の原点は，
自分とすべてのひとの「いのち」を大切にすること

活動テーマ　「手と手から」
中高生として地域や国際社会の平和と人権の環を広げる ために貢献する

①地域貢献活動
②ハンセン病問題から学ぶ
③東日本大震災被災者支援交流活動
④核廃絶ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン

盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部活動内容②

「平和」…中高生の私たちがいまできること

・被爆者への聞き取りや交流

被爆者の声

「もう誰にも自分と同じ思いをさせてはならない。」
「核兵器はありとあらゆる生き物の命を根こそぎ奪う。平和は待っていても来てはくれない。懸命に守らないと逃げていく。」

・核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン
・G７サミットに向け，各首脳に手紙を送る
・ウクライナから避難してきた方との交流

盈進中学高等学校
ヒューマンライツ部活動内容③

手話歌

私たちは，被爆者の想いを継承し，核廃絶のために行動します。
核兵器廃絶は，決して簡単なことではありません。
しかし，今までたとえ小さくても一人一人が声を上げ続けてきたことで，世界は少しずつ変わってきてます。（核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン　趣意書より抜粋）

●意見交換
「現在(いま)は，本当に平和な社会といえるのか」

ヒューマンライツ部の発表の感想

- 核のない社会に向けて，若い世代が受け継いでいることにパワーを感じた。
- 中高生として平和と人権について，自分たちで学び，調べ，考え，行動する活動がよくわかり，思いが伝わり感動した。

国連に行って感じたことは？

- 国連には，いろいろな国，年代の人が集まり，多くの意見を聴くことができて，良い経験になった。広島の中高生の発表にも関心を持ってもらえた。

ヒューマンライツ部に入って感じたことは何ですか？

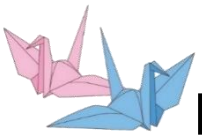
- 今まで知らなかったハンセン病や核廃絶等の問題を知ることができた。知らないことは怖いと感じるようになった。核の問題は，ヒロシマ・ナガサキだけの問題でない。自分事として考えるようになった。ウクライナで起こっていることも私たちの問題だと思う。
- 自分の知っている世界が狭いと感じた。いろんな人に出会って，いろんな価値観を知り，世界に向けて自分がやらないといけないことに気づかされた。
- 命の重みを感じるようになった。

●意見交換
「現在(いま)は，本当に平和な社会といえるのか」

現在は，平和とは言えないのではないか。
平和が自分自身のことになっているだろうか。
戦争がないだけでは平和とは言えない。
平和と根っこにある「人権」を守っていかなければならない。

一人ひとりが夢や希望を持って生きられるよう，文化や考え方のちがいをこえて，多様性を認め合う社会にしていこう。

ふくやま人権大学２０２３ゼミ　人権・平和ゼミコース



第３回

「若い世代による平和メッセージ」

10 月 28 日(土)「願いを結集し，平和な未来を紡ぐ！」

●講師　高橋悠太さん
（核廃絶ネゴシエーター，一般社団法人かたわら代表理事）

●協力　梶原百恵さん
（第 23 代高校生平和大使）

「私たちの社会は，私たちの手でつくっていこう」

戦争を大きくさせないためには，国際法などが必要，そして市民社会の力が大切。若い世代と言われる私たちは平和のために何ができるか？を考えている。2000 年生まれの 23 歳。Ｚ世代と言われるが，ひとくくりにして欲しくない。おとなが若い世代の意見を求める時は，主導権を持っている世代がすでに言って欲しい答えを持っているし，おとながわかりやすい言葉に切り抜いてしまうかもしれない。「若い世代の本当の声を社会にどう反映させていくか。社会がその声にどう向き合うか」ということを考えている。

市民社会の活動は，リーダーやカリスマがいて実現しているのではない。名もないボランティアの集まりで成り立ち，みんながチームとなることで続いていくし，変化を実現できない。では，このボランティアのコミュニティをどう作っていくか？　わかりやすい例でいえば，2007 年オバマさんは大統領選で，「Yes，we can.（私たちにはできる）」と言った。「Yes，I can.」ではなかった。（「チームオーガナイズ」私たちみんなでできる）一人のリーダー育成ではなく，参加者が主催者になる。そんな人をつくり，核兵器をどうやって廃絶するかを考え，「カクワカ広島」ができた。その活動の中で広島の国会議員に「核兵器についてどう思うか？」話を聞きに行ったり電子署名を持って直談判に行ったりした。

高知県の副知事は，「広島や長崎の知事ではないので被爆について知らない」と答えた。1954 年被爆したマグロ漁船の第五福竜丸は高知県が母港。家族もまだ県内に住んでいる。

高知県が核に関係していないわけではない。

核の問題は，広島・長崎以外では話を出しにくく，自分たちの問題ではないとかわされる。

大学卒業後，「核廃絶ネゴシエーター（交渉人）」と名のり，職業を作った。法人を起業し，市民の立場で平和を作っている人，ボランティアではなく活動している人をどう支援していくかを考えている。

この講座で一緒に考えたいこと・みなさんに期待していること
①ともに学ぶ・ともに考える
②地域性を生かしつつ，被爆地に囚われない核問題
③「国政」イシュー（課題・問題・論争点）を地域や自治体も深くかかわる問題にして，核軍縮の論議を民主化する。

①「カクワカ広島」って何？
②世界の核被害
③なぜ私は活動するのか？
④核兵器をなくすために

① 「カクワカ広島（核政策を知りたい広島若者有権者の会）」とは何か？
2019 年 1 月 7 日発足し共同代表となる。議員に会いに行くという活動。メンバーはさまざまな仕事や活動をしている。きっかけは，2017 年「ＩＣＡＮ」（核兵器廃絶国際キャンペーン），「核兵器禁止条約」ができたこと。「核兵器は，持ってはダメ！　使ってはダメ！　おどしてもダメ！」ジュネーブに本部があり，ＮＧＯが協力して 103 か国，600 団体がネットワークを作り，あらゆる国の国会議員や外交官に核兵器禁止条約の必要性を伝える活動を行った。その時核兵器をなくそうとしている人からも「禁止は時期尚早だ」と言われた。でも，「核禁止」というゴールを先に決めることを提案した。各国で活動したために多くの情報がジュネーブに集まってきた。そして具体的に社会を変えることができた。実は，情報を集めたりするには市民の力が大きい。
サーロさんが広島に来られて「祈るだけではなく，具体的に行動してください」と訴えた。何かやらなくてはいけないと思った。
その時の日本での活動は，政治色にとらわれない 12 人の議員に会いに行くことだった。ある議員には，「核兵器はなくなるといいが，核抑止に代わる他の抑止力が必要」と言われた。

この「核禁止条約」にすべての国が入れば，確実に核兵器はなくなる。
193 か国中 96 か国が加入。すべて核を持っていない国。核の傘下にいるドイツやオーストラリアは加入に前向きでオブザーバー参加しようとしている。日本は何もしていない。そのことをアメリカは加入しない言い訳として「日本のような核の傘下の国があるから」と言っている。日本のような国こそが加入していかないといけない。これが今の課題。日本の 710 人の国会議員が国会で決定してくれれば日本も加盟できる。（現状は，賛成３５％（オブザーバー参加に参加を含めると５１％），反対４％，未回答４５％）

ＮＡＴＯの核があるから，ロシアは核兵器を使わないと言えるか。
アメリカは，「私たちは核を持っているが使わない。抑止するためのよい核，責任のある核保有。逆にロシアの核保有は無責任な核保有」と言っている。核はオールマイティではない。いい核も悪い核もない。2023 年は核が戦争の道具として機能している。
「どんな国でも，どんな言い訳も，たとえ自衛でも。あらゆる核兵器は許されない！！」

②世界各地で核被害は続いている
・「人道アプローチ」（落とされた立場から考えていく）
・核実験の被害者　マーシャル諸島（アメリカ），カザフスタン（ロシア），クリスマス島

（イギリス），アルジェリア・ポリネシア（フランス），ウィグル・チベット（中国）
どの国も，核実験は自国から離れたところで行う。

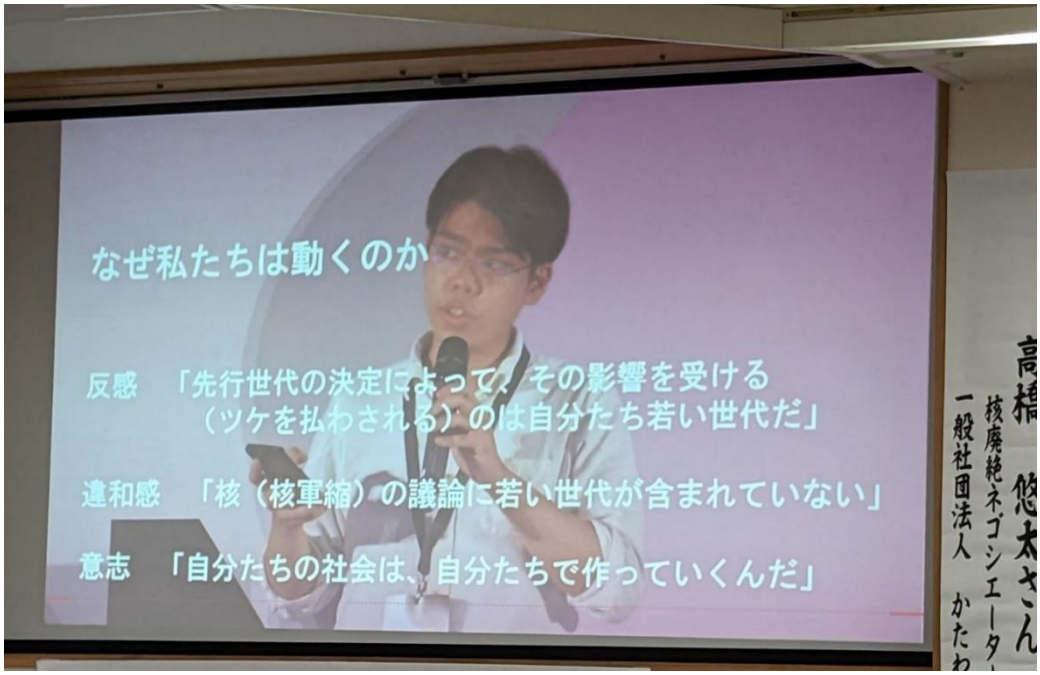
- 1953 年マーシャル諸島，ビギニ環礁で第五福竜丸が被爆。実験は 10 年間で 200 回近い核実験を繰り返した。それは広島型の 1.2 倍の原子爆弾が 7 年間毎日爆発したのと同じことだと言われている。
- エニウェクト環礁，ルニット島にはコンクリートで覆われたルニットドームがあり，アメリカが核の最終処理場として核に関するものを埋めている。現在ひび割れが生じている。海面も上昇している。魚も捕れなくなっていると聞いた。
- 日本の福島の原発処理水の放出にも敏感に反応している。「なぜ相談してくれなかったのか。」と憤っている。

- 気候変動と核はつながっている部分も多い
- 核兵器が爆発した場合は「核の冬が訪れる」と言われている。
もし核戦争が起きれば，チリなどが地球を覆い太陽光が遮断される。平均気温は 4 度から 5 度下がる。
- 今でさえ産業革命以後の気候上昇を 1.5 度に抑えようとしている。それなのに 4 度も下がったらとんでもないことになる。作物はほとんど育たなくなる。魚も捕れなくなる。
- インドとパキスタンが核戦争をしたら，約 20 億人に飢餓の被害が広がる。アメリカとロシアが核戦争をしたら，約 50 億人に被害がでると言われている。
- そして被害が大きいのは南半球の人たちだと言われている。気温の高い地域は，生産物は 1／3に減少する。地球変動や災害の時と似ている。
- ウラン採掘場で働く人たち。
ウラン採掘の労働をしている人たちは，危険性を伝えられずに従事させられた。
ウランを濃縮するときに出る残りカスが「劣化ウラン弾」となる。アフガニスタン，イラン，湾岸戦争でアメリカは使用してきた。
- アメリカは実験の責任をとっていない。3 月 1 日はマーシャル諸島のビキニのメモリアルデー。アメリカは謝らず，「人類への貢献。人類のための犠牲に感謝する」と言い，「200 万ドルで補償した」と言っている。解決したと言っている。責任はないと言っている。

③なぜ私は行動するのか？

「本当に抑圧されてきた人々が声を上げ，非当事者も連帯する」。

例としては黒人差別反対運動「Black Lives Matter」がある。白人の人達も多く運動にかかわっていった。そもそもこれまでなぜ差別が放置されてきたのか。改めて声をあげ，他の人たちが連帯していった。



【まとめ】
①カクワカ→議員に会いに行くことで政策を変えていく取り組み
②世界の核被害がどのように語られていくか。
③不当な立場に置かれている当事者の声上げと非当事者との連携

- 「カクワカ広島」の活動は若者の声を直接届けるアクション。私たち自身が議論の場に参画していくこと。
- 当事者と非当事者の連帯が評価される世界は，お互いが手を携えて，一緒に物事が考えられる社会。つまり，被爆地でなくても核の問題が語られていく社会。
- 核兵器の議論は誰がしてきたのか？　男性中心の社会で語られてきたのではないか。アメリカ社会では、男性が相手に勝たなくてはいけないという考え方がある。相手の国より強くないといけない。それが核兵器保持にもつながる。
- ジェンダーバランスがあまりにも悪い。核の放射線の影響では，がんの発生率は女性が２倍。幼いほうが影響を受けやすい。（赤十字の調査）※本当の被害はわかっていない。
- 外交官の比率　　核を持っている国　　女：男＝１：９
  　　持っていいない国　　女：男＝４：６
- ジェンダー平等とは，男女比が一緒になることではなく，みんなが我慢せずに，平等に選べる権利が保障されること（機会均等・ジェンダー平等）が大切。

【会場からの質問】

Q．考え方や立場の違う人にどう語ればいいのか。

A．相手の考え方を変えようとするのではなく，相手に他の考え方もあることを知ってもらいたいと思う。理解しようと努めてくれる関係性を作りたいと思っている。
自分の考えを押し付けると対立になる。常に相手の考えていることや立場を考えている。

Q．「カクワカ広島」の活動をしていて，新しく学んだことは何か。

A．市民活動なので，どう継続していくか，輪をどうやって広げていくかが大切。
考えや思想をぶつけるのでは，相手は萎縮したり，考え方が違うと冷めたりしてしまう。国際法や外交，条例なども。「戦争はなくさないといけない」というベースがないと共に検討することができない。
広島も被害のことだけを語っていては押し付けているようになる。また，核の被害は原爆投下の地だけではなく全世界に広がっていることなども語っていく。

Q．福山で被爆者の会員は 17 人になった。今後いなくなっていく。若い人たちと一緒になって核廃絶の活動をしていきたい。

A　福山市でも核の問題についてつなげる活動があり広がりがでている。

講座に参加して・・・

【アンケートより】

- 自分たち一人ひとりの問題として考えていくことの重要性を学べた。
- 従来の人権・平和ゼミとは少し違うテーマや内容で新しい考えに触れることができてとてもよかった。
- 人類は未来を迎えられるのか？毎日，自問自答している人が多いのではないか。われわれ７０歳以上の考えでは解決できないと思う。故に若い世代が平和と人権について勉強し，考え，何をするべきか見出して活動してほしい。世界中の支配者から権力を取りあげ，みんなの世界にしてほしい。
- 核廃絶ばかりでなく，世界の問題に目を向けた講義となっていた。

「あなたのそれもあり、わたしのこれもあり～多様性は力になる～」
第１回　そもそも多様性はどうして大切なの？

実施日　１１月１８日（土）１０：００～１１：３０

場　所　福山平成大学３号館３１０３教室

普段意識していないところにもある身近な多様性の事例から、いじめや差別につながる問題まで、個人の差や特性、さまざまな価値観があることに気づき、学ぶ機会として実施した。

＊パネル展示と事前アンケート

講義をしていただく上村教授と相談してパネルと事前アンケートを作成し、１０月２０日から１１月５日の期間で各支所等において展示とアンケート記入を実施した。アンケートは２０５枚回収し、集約をした。

男性は男らしく，女性は女らしく？

男女への偏った思い込みから，「男性（女性）は〇〇であるべき」といった「らしさ」を押しつけていませんか？「らしさ」の押しつけによって「自分らしさ」が失われてしまいます。

生物的な性差と社会的な性差は別物であり，私たちが暮らしている社会には男性・女性だけでは分けることができない多様な性が存在しています。

障がいの有無に関わらず，観客席で声援を送りたい！

プロ野球の球場にある車椅子席の数を知っていますか？多くの球場では４０席以下，客席に占める割合としては０．１％以下となっています。

ユニバーサルデザインに配慮したマツダスタジアムは１４６の車椅子席があり，割合としては０．４４％で，これは日本の球場の中でもトップクラスです。

また，難聴者が場内放送を明瞭に聞き取ることができる補聴設備が１，０００席分整備されるなど，障がいのある人も観戦が楽しめるよう配慮された球場となっています。

人口の２％が外国人

福山市には２０２３年９月末時点で１０，６２３人の外国人が暮らしています。

コロナ禍の折，「外国人お断り」と表示した店が少なからずありました。しかし，ほとんどの外国人が昨日今日入国したのではなく，長く福山に住み続けている市民なのです。

そして今，町内会の役員や消防団員として町を支える外国人が増えています。

多様性が尊重される社会

日本では多様性について「ダイバーシティ」と表現しますが，本来は「多様性の受容」を意味します。人にはさまざまな違いがあり，身体の特徴，性別，年齢，生れたところ，国籍，民族など，違いを数えたらきりがありません。人は，多様な面を持っており，いくつもの違う立場を持ちながら，多くの人や社会と関わりながら暮らしています。誰一人として同じ人はおらず，人は「かけがえのない存在」といわれる所以（ゆえん）でもあります。

しかし，この違いによって，お互いが理解しあえなかったり，意見がぶつかりあったりすることがよくあります。そして，「この地域ではこれが当たり前」とか「同じ職場なのだから同じことをするのが当然」といって同一性を重視すると，この違いによって，その人を否定し，差別することにつながります。これが，不当な理由によってなされると，重大な人権侵害につながっていきます。

ふくやま人権大学２０２３　多様性ゼミコース事前アンケート集約

（あなたのそれもあり，わたしのこれもあり　～多様性は力になる～　）

アンケート提出枚数：２０５枚

ふくやま人権大学で多様性と人権との関わりを学ぶ「あなたのそれもあり，わたしのこれもあり　～多様性は力になる～」の講座を開催します。この講座を充実したものにしていくため，つぎのアンケートにご協力をお願いします。

〔問１〕　多様性について知っていますか？

１．はい　（１６６人）　　２．いいえ　（　３９人）

〔問２〕　学校や会社で話題にしたことはありますか？

１．はい　（１２１人）　　２．いいえ　（　８４人）

〔問３〕　家庭や友人で話題にしたことはありますか？

１．はい　（９６人）　　２．いいえ　（１０９人）

〔問４〕　福山市の人権施策について知っていますか？

１．はい　（５５人）　　２．いいえ　（１４８人）

〔問５〕　ご意見や要望などがありましたらご記入ください。

＊意見・要望　（アンケート提出枚数　２０５枚）

・難しそうなイメージがする。
・日本人は固定観念が強いので、みんなと違う人を避けたがるけど、最近は特に若い人は多様性を受け入れる人が多い。
・自分の持っている考えだけでなく他の異なる意見を受け入れることが大事だと考えている。
問題などを用いて、現在は男女の区別があまりないのでとても良いと考える。しかし、芸能人が公表すると、誹謗中傷がとならないというのが、現状でもっと多様性について全国民、全世界で理解していくべきだと考える。
・多様性社会と言われているが多様性が浸透しきれてない部分が多いと感じている。
・身近に感じる事がなかなかなかったのですが、このようなセミナーや掲示、アンケート用紙など考える機会になった。
・性の多様性しか思い浮かばなかったが、身の回りにたくさんあることがわかった。
・同性愛という
・多様な背景や視点を持つ社員が不足し、企業や組織に多様性が欠如すると、イノベーションの機会が制約され、アイデアが出なくなり、市場における競争力が低下する可能性がある。
・多様性に関して良いところ、悪いところを基本から学べることや、知らない人にも説明できるような講座をしてほしい。
・多様性について知っているとしたものの、まだまだ知識は少ないと思う。これからも学ぶ必要性を感じている。

＊講義について

・事前にとったアンケートの振り返りを行い、質問記入してあった「多様性と人権の違い」等について多様性は人権意識という土壌があってはじめて花が開くことを話された。また、パネル展示に講師の経験を踏まえながら説明をされた。
・どうして多様性がたいせつなのかについて、そもそも多様性って何なのか、多様性の基盤となるのは人権であることを話された。
・多様な人々の存在を認め、社会の中で共に生きていくために作られた概念が人権であり、この人権を養分にして多様性という花が開いていくこと。その「花」を育てるためには制度や文化を問い直す視線や私たち自身の意識などを見つめ直すという「水」が必要で、それによって大きく花開いていくようになることをわかりやすく講義された。

「あなたのそれもあり、わたしのこれもあり～多様性は力になる～」
第２回　多様性を大切にする社会の実現をめざして

実施日　１１月２５日（土）１０：００～１１：３０
場所　　福山平成大学３号館３１０３教室

＊発表について

＊発表　ヒューマンライツ部活動内容のプレゼンテーション
・ヒューマンライツ部の主な活動についての発表　①地域貢献活動　②ハンセン病問題　③核廃絶ヒロシマ・中高生による署名活動など
・手話歌　目の不自由な先輩との出会いがきっかけで、手話学習が始まった。
＊発表　上村先生の哲学の授業を受講している学生の発表
・第１回目の講義を受けての感想
①　多様性を認める対話のポイントは自分の考えを「普通だ」「自然だ」「当然だ」と考えがちだが、価値観は世代や生活環境や人生経験などによって多様である。
②　自分らしく生きることが他人や社会を傷つけることがあってはならない。社会のなかで多様性が認められなくてはならない。基盤となる理念がお互いの「人権の尊重」である。

＊講義について

・自分のなかの多様性を認めることが大切で、無知の恐ろしさは無意識に人を傷つける。
・社会の一員として自覚をもち、無関心を改め、いじめや差別を見抜くこと。
・正しく学び、正しく行動することが大切である。
・過酷な偏見、差別を生き抜いてきた人々から「生きる意味」を学ぶこと。
・差別される人、差別する人の心の問題がある。人を貶めるような社会的な意味があるから、人権から多様性を考えていく必要がある。